

東北ダンプ



【発行】全日本建設交通一般労働組合(略称・建交労)東北ダンプ支部
〒963-8025 郡山市桑野2-3-2
建交労福島ダンプ分会内
2023年12月1日発行 NO.18 Tel.024-933-4511 fax024-933-1868
Email : fukusimadanpu@mtj.biglobe.ne.jp



第2回定期大会開催

11月11日(土)建交労東北ダンプ支部第2回定期大会を福島市で開催しました。東北各地から26人の代議員(28人の定数)、役員9人の合計35人が参加しました。議長団の福島分会の永田智朗さんと岩手分会の細川力男さんのもと議事をすすめ、執行部の提案は満場一致で採択されました。討論での発言要旨は次のとおりです。またウラ面の役員を選出しました。いずれも再任です。(敬称略)

大会終了後の夕食交流会では酒を酌み交わし交流を深めました。

強大な組織建設を 瀧柳勝彦執行委員長



瀧柳委員長は、あいさつの中で「ダンプをとりまくきびしい情勢、重層下請構造のもとで過去10年、60%以上発注者の積算が上がっているにもかかわらず、ダンプの単価に反映されたのは微々たる額である。ダンプの積算単価が工事原価で全国平均75,000円を越えていること、本来もらわなければならない工事原価をもらえるようにすることは、労働組合としての使命である」と述べました。

つづいて使用促進闘争の意義と実績を述べ、そのためには、強固な組織建設が必要であること、当面各県の分会の組織の課題として以下の4つをあげました。

- ① 組合の規約にもとづいた組織運営(毎月1回の分会役員、班長会議の徹底)
- ② 班体制の確立(地域や仕事のつながりなどでも)
- ③ 班会議の徹底(2~3ヶ月に1回の会議)
- ④ 組織拡大、同じ目的を持った仲間を増やすこと

最後に次のようにあいさつを結びました。「私は、ダンプ労働者のいいところは、様々な面で率直な意見交換ができることです。この1年間、東北ダンプ支部の方針にもとづいて取組み、次の大会までに各分会とも組織拡大の面でも、大いに前進を勝ち取りましょう。本日の大会で活発な討論が行われることを期待して、私のあいさつに代えさせていただきます」

毎日のように起きてくるクマによる被害が連日報道され、今年、日本各地でクマによる被害が後を絶たない。冬になれば冬眠し惨事も収まるはず、と思つたら、眠らないクマがいることを知つてほしい。▼専門家によると、今年は餌となるブナの実が大凶作で餌が乏しい分エネルギーを抑えるため早く冬眠するクマがいる一方、空腹で眠れないクマが動き回ると考えられている▼過去に12月や1月市街地に出没する「アーバンベア」と言い、人里に繰り返し現れているうち、その環境に慣れて人を警戒しなくなるため、クマが寄り付かないようにならなければならない。▼マタギの間では「穴持たず」と呼ばれるクマが存在し、山の木の実が豊富な年であっても肉食を好むクマは一定数いると言う。肉食化したクマと言えは、北海道で2019年から今年迄放牧の牛60頭以上を襲った【オソ18】のヒグマの存在を忘れてはならない。▼肉食化したクマは冬眠せずに、真冬にも家畜や人間までも襲うことがある。▼見つけたら、ためらわずにマタギたちの間では駆除するよう伝わっているが、近年暖冬の影響で体温が下がりにくらず眠れなくなるので、冬山に入る登山やスキーなどは特に注意が必要で、降雪になれば被害がなくなると早合点しないようにしたいものです。▼11月になれば朝晩めつきり冷え込む時期となり、アユ竿を鉄砲に持ち替える季節が到来し、有害駆除許可を得て、カワウ狩猟解禁となる。クマ駆除も同様で、産卵を控えた溪流魚(アユ)を保護のための活動が、6年前から「岐阜県カワウ被害対策指針」に基づいて水産資源の保全のため取り組んでいる「鮎釣り師」の存在を知ってほしい。

高橋 溪峰

渡邊 俊(宮城班)

今年の3月に宮城班を結成し、不安はあったが役員を決め、班会議を定例的にやることにしてスタートした。使用促進闘争の合意した現場へ全員が就労できるように、順番を取り決めて就労している。

現在、県北の吉田川の河川工事、県南の丸森町の河川工事や丸森トンネル工事に就労している。配車や日常の下請けとのやり取りなどは、班長を中心に3名の班役員で相談しながら対応している。班をまとめるのは大変だけれど、ダンプの単価を上げるのは、組合しかないと思う。東日本大震災の復興工事が終わると、宮城県内の単価は、一気に下がった。32,000円というところもある。燃料が上がると、週休2日制になりつつある現場では、就労日が減り低単価のままでは、ダンプで生活が成り立たない。組合の運動に参加して、単価を改善することが最大の課題だと思う。

組織拡大では、宮城班を100人の組織にし、新しい専従を迎えようという目標を立てた。3月の宮城班結成時は20人、この8か月で30人に到達した。自分達のまわりで組合に入っていない人を誘っている。単価を上げることに反対する人はいないので、気軽に声をかけている。

今年の夏のダンプキャラバンには、5人の仲間が仕事を休んで参加した。こういう積み重ねが、ダンプの単価改善につながるのだという実感が持てた。

人間関係や様々な問題が起き大変だが、そこは率直に話し合い、たくさん仲間の仲間が参加できるような班体制にしていきたいと考えている。



永井正彦副委員長

我々は交通安全を推進している団体・建交労の一員である。使用促進について元請と合意した現場で就労する者は、必ず組合の看板をフロントに出し、組合員であることの意味表示を徹底するようにしていこう。

下川 晃(岩手分会)

岩手分会は、数年前から本格的に使用促進闘争を取り組んできた。組合の専従が元請と交渉し、国交省にも繰返し要請を行っている。今年も、昨年と同様、奥州市の栗原建設、盛岡市の樋下建設の現場で合意をかちとっている。今年の岩手県内は公共事業が少なく使用促進の現場も少ないが、組合員が協力し使用促進現場が出た場合は配車をするようにしている。

組織的には、執行部の若返りを以前から意識している。コロナで組合行事は減少傾向にあるが、12月2日に盛岡市内で分会の定期大会の予定だ。もっと組合員同士の交流を深めていきたいと思う。



阪神タイガース38年ぶり日本一



晴釣雨読(せいちょううどく)

毎日のように起きてくるクマによる被害が連日報道され、今年、日本各地でクマによる被害が後を絶たない。冬になれば冬眠し惨事も収まるはず、と思つたら、眠らないクマがいることを知つてほしい。▼専門家によると、今年は餌となるブナの実が大凶作で餌が乏しい分エネルギーを抑えるため早く冬眠するクマがいる一方、空腹で眠れないクマが動き回ると考えられている▼過去に12月や1月市街地に出没する「アーバンベア」と言い、人里に繰り返し現れているうち、その環境に慣れて人を警戒しなくなるため、クマが寄り付かないようにならなければならない。▼マタギの間では「穴持たず」と呼ばれるクマが存在し、山の木の実が豊富な年であっても肉食を好むクマは一定数いると言う。肉食化したクマと言えは、北海道で2019年から今年迄放牧の牛60頭以上を襲った【オソ18】のヒグマの存在を忘れてはならない。▼肉食化したクマは冬眠せずに、真冬にも家畜や人間までも襲うことがある。▼見つけたら、ためらわずにマタギたちの間では駆除するよう伝わっているが、近年暖冬の影響で体温が下がりにくらず眠れなくなるので、冬山に入る登山やスキーなどは特に注意が必要で、降雪になれば被害がなくなると早合点しないようにしたいものです。▼11月になれば朝晩めつきり冷え込む時期となり、アユ竿を鉄砲に持ち替える季節が到来し、有害駆除許可を得て、カワウ狩猟解禁となる。クマ駆除も同様で、産卵を控えた溪流魚(アユ)を保護のための活動が、6年前から「岐阜県カワウ被害対策指針」に基づいて水産資源の保全のため取り組んでいる「鮎釣り師」の存在を知ってほしい。

高橋 溪峰



私は、半年前まで会社の運転手として働いていた。いつかは自分でダンプを所有してこの仕事をやりたいと考えていた。退職をきっかけに決断し、ダンプ購入に進んだ。個人で始めることに不安がなかったと言ったらウソになるが、以前から付き合いがあった仲間からの誘いがあり、東北ダンプ支部福島分会に加入することを決めた。

組合に加入して、ダンプに関していろいろ話を聞いて助かっている。中でも一番魅力的なのは、ダンプの一日あたりの単価を上げる運動です。県中の1日の単価相場は、良くても38,000円~40,000円、安い現場になると35,000円~36,000円もあります。燃料も上がり、なにかも高騰している中でやり繰りは本当に大変だ。加入して間もない私にも声がかかり、組合と元請が合意した現場で就労している。実際に働いて53,000円で請求できることに正直驚きを感じている。私たちダンプ労働者には、なくてはならない組合だと実感しています。私は組合歴で言えば、まだまだ浅い方。今後組合を通じていろいろと学習していきたいと思っています。

町なかにクマ続出



いわき班では、使用促進闘争で合意した現場への配車や日常のやり取りなど、班として主体的に取り組んでいる。いわき班では、就労について公平性の観点から、1人30日交代で就労している。配車については、いわき班で責任を持って対応していて、班の総会で選抜した配車係が名簿順に声をかけ、就労日数などを管理しながら就労している。多いときは、4~6現場と集中することがあるので、いわき班だけでは間に合わないことがある。その際は近隣の班に声をかけて、就労に参加してもらっている。



組合行事へも積極的に参加している。この運動が成り立つのは、組合の力、使用促進闘争で合意した高い単価の現場に就労できれば、その分の収入は増える。組合行事に参加するのは嫌だけど就労はしたいでは、道理が通らない。最初の頃は決まった組合員しか参加しないという問題があり、班会議で議論し、いつも組合の活動に参加をしている組合員からは、『組合行事に参加しない組合員には、就労の配車をしなければいいんだ』と意見があがった。しかしそれではいわき班は、特定の組合員しか残らなくなり小さくなってしまいますので組合の行事へ参加しやすいように、『減点方式ではなく、加点方式にしよう』、つまりは、30日交代で就労しているが、組合行事に参加した組合員には、5日をプラスして、35日就労できるようにしようという提案があり、仲間も納得して承認した。そして今では、全員が順番で組合行事へ参加するようになった。

このように、いわき班では問題が起こると班会議で率直に話し合い、全員で結論を出して実践している。我々ダンプ屋、ダンプ労働者にとって、単価問題は最大の感心だし、生活に直結している。一人一人では何もできないが、労働組合があれば、改善することができるのだという確信が持てた。みなさん共にがんばっていきましょう。

専従と一体となって、組合の組織拡大をがんばり、2人の拡大に結び付いた。



ファーストペンギンと使用促進闘争 ~ゼネコン本社要請行動の際に思い出したこと

11月9日~10日、第39回ゼネコン本社要請行動に取り組みました。1班は飛鳥建設、安藤ハザマ、西松建設を、2班は竹中土木、東洋建設、銭高組、戸田建設を訪問しました。各社とも80分間の中で意見交換をしています。

私は1班を担当しましたが、それぞれに忌憚のない(率直な)話し合いが出来て、非常に意義のある活動だと思っています。各地域に出る個別工事の担当は各社の支店になりますが、本社土木部と建交労が直接話し合えば、本社の見解をひっくり返す様な判断を支店はしません。今回の行動でも、A社の幹部から「ダンプが地場単価などで生活できない事はよく知っています。しかし、下請からの請求がないと支払う事は出来ません」と率直な感想がありました。

今回も各社の門前に立つてつくづく思った事は、20年前にこの活動を始めなかったら、今の単価や就労台数は存在しなかったという事です。組合歴の少ない専従者や現場の組合員は、地場単価よりも2万円も高い単価で働ける理由を知らないと思うし、想像もしないと思います。

本社要請行動を始めるきっかけは、労職部会がトンネルじん肺闘争で、ゼネコン本社と交渉していたことから、労職部会が窓口になって建設6部会との交渉をセット出来た事です。当初は60分間に限られていたものが、今では各社とも80分間付き合ってくれます。当時を思い出すと、労職部会、ダンプ部会、生コン部会等の幹部の判断が、今日の使用促進闘争の先駆けとなったわけです。

ファーストペンギンの由来は南極にあります。ペンギンは魚を餌としていますから、海に飛び込んで魚を取らないと餓死してしまいます。特に子育て中は、口にいっぱい餌を加えて子供のところに戻らないと、ペンギンは絶滅します。海の中には、ペンギンが飛び込むのを知っている獺(どうもう)なシャチが手ぐすね引いて待っています。

誰かが最初に海に飛び込んで、今日はシャチがいないと分かったら、他のペンギンも一斉に海に飛び込みます。最初に海に飛び込むペンギンを「ファーストペンギン」と呼びます。20年前の建設各部会の幹部がファーストペンギンだった訳です。(森谷)

ガザ子どもも殺すな



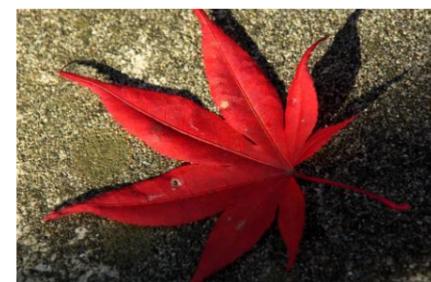
アハマトさん

「カイロ―秋山豊」グテレ ス国連事務総長は、パレスチナのガザが「子どもの墓場」になりつつあると警告しています。ガザ当局によると15日までに、イスラエル軍の無差別攻撃で4710人の子どもが殺されました。遺体の損傷がひどくて身元の特定ができず、埋葬場所の不足で子どもも集団埋葬されています。本紙の取材取材に応じたガザ南部ハンユニスのジハード・アルシャマリさんは「痛ましい姿になった子どもの遺体をあまりに多く見ている。苦しくて眠ることができない」と語りました。

ひどい損傷 身元特定できず 遺体さえ尊厳奪われ...

「誰の子どもかわからず埋葬せざるを得ないことが多い。親の気持ちを思うと胸がはりさけそうだ」。運ばれてくる遺体の多くは爆撃の熱を帯び、火災やガスの臭いを放っていると言います。アハマトさんは「イスラーム教では遺体を布に包む前に洗うことが求められる。しかし遺体がばらばらにされていたり、頭部がつぶされていたりして洗うこともできない。遺体さえ人間としての尊厳を踏みにじられている」と悲しみます。「国際社会はガザで人間が虐殺されているのをただ見守っていてはならない」と訴えました。

しんぶん赤旗 2023年11月17日付より



建交労東北ダンプ支部の役員 (任期は2023年11月11日~第3回大会)	
執行委員長	淵柳勝彦(福島分会)
副執行委員長	高橋正彦(秋田分会)
副執行委員長	永井正彦(福島分会)
副執行委員長	森谷 稔(福島分会)
書記長	昆 茂太郎(岩手分会)
書記次長	田中喜三男(秋田分会)
執行委員	鈴木宏明(岩手分会)
執行委員	高橋高男(青森分会)
執行委員	半澤正樹(福島分会)
会計監査	伊藤玲子(秋田分会)
会計監査	藤戸一祐(岩手分会)